

平成 19 年 7 月 19 日
幹事（小嶋・大野）

「新しい日本の ODA」を語る会 前回の議論の整理と第 11 回会合の進め方

1. 第 10 回の議論をふまえた整理・今後の留意点

- ・ 課題 10「メリハリの利いたアフリカ支援を行う」に関し、対アフリカ支援の理念における「国際益」と「国民益」の不可分性、ODA の質・量を拡充する必要性、民間セクター開発を促進する仕組みづくり（アフリカ・リスク緩和のための特別ファシリティの設置、アフリカ支援戦略の策定（司令塔に対する「国際協力戦略会議」）及び実施促進（「援助実施者協議会」）を担う会議・協議会の必要性）などを記載。
- ・ 併せて、課題 8「民間セクターとの連携強化、官民同盟を構築する」も加筆。

【参考資料】

- ODA マニフェストの作成に向けて（事務局たたき台 7/19 版）
- 第 10 回会合の概要

2. 今後の進め方（マニフェスト作成にあたって）

- ・ 本年 4 月（第 8 回会合）から現在までの特定イシューに関する集中討論をふまえ、今後、マニフェスト案の作成に取り組む。
- ・ 7 月後半～9 月前半にかけて、「ODA マニフェストの作成に向けて（事務局たたき台）」表に沿って事務局にて原案を準備、取り纏め協力者の助言を仰ぎながら、最終案を作成する。
- ・ 検討した最終案を次回会合（9 月後半予定）で提示、議論いただく。
- ・ 本マニフェストの性格については、マニフェスト冒頭部分の素案をご参照。

【参考資料】

- マニフェスト冒頭部分の素案（マニフェスト作成にあたって）

3. 本日のねらい 「国際協力（ODA）の現場と国民の理解」

- ・ 課題 4「「国民の理解と参加を促進する」に焦点をあてる。具体的には、（財）国際協力推進協会が実施した世論調査の結果等をふまえ、ODA 現場と認識のギャップ、国民の理解を促進する方法、広報戦略の中身等、具体的な提案につながる議論を行う。
- ・ 併せて、課題 7 が掲げる ODA 予算の減少の反転・増額にむけた有権者、政治家のコンセンサスを醸成するために必要な取り組みについても議論する。

【参考資料】

- 内閣府の世論調査（2006 年 10 月実施）の結果抜粋

以上